指導計画案

指導上の重点目標	【なぜ漢文を学ぶのか】 【訓読の世界】 1　漢文学習の意義、訓読法の意味や由来について理解させる。 2　熟語をもとに、漢文の基本構造を理解し、慣れさせる 3　白文・訓点（句読点・返り点・送り仮名）・書き下し文について理解し、訓点を施せるようにさせる。 4　訓点にしたがって音読できるようにさせ、漢文訓読の口調に慣れさせる。 5　返読文字・助字・置き字・再読文字について意味や用法を理解させる。 6　書き下し文を正しく書けるようにさせる。 7　格言の持つ意味について考えさせる。
学習活動と指導上の留意点	
導入	❶　中学校で学習した漢詩・漢文で印象に残ったものをあげる。**知技** **思判表** P一一六「なぜ漢文を学ぶのか」を読み、生徒の知識や関心の程度、漢文のとらえ方を把握し、以後の指導計画の参考にする。
展開	❶　基本構造「主語＋述語」「修飾語＋被修飾語」と送り仮名・句読点・書き下し文について理解する。 P一一七「鳥語」「花香」「大器」「晩成」などから、漢文と日本語とで語順が変わらないことを確認する。P一一六下段「ポイント❶」を活用し、訓読・白文・訓点・書き下し文について確認する。 ❷　返り点の付け方と、返り点が誕生した理由（基本構造「述語＋目的語・補語」が日本語の言語構造とは異なること）を理解し、返読の必要性について考える。**知技** P一一七下段「ポイント❷」を活用し、「山に登る」「登山」などから、漢文と日本語の言語構造の違いを確認する。 ❸　P一一七～一一九の「送り仮名・句読点」「返り点」の教材について、返り点に従って繰り返し音読する。 ❹　原文の下にある書き下し文を適宜参照させる。 P一二一「学習のポイント」１を行う。**知技**【「学習のポイント」１】
まとめと発展	❶　P一二〇～一二二の「置き字」「再読文字」の教材について、返り点に従って繰り返し音読する。歴史的仮名遣いなど、日本の古典文との関連を意識させ、正しく音読できるように指導する。 ❷　本文を書き下し文に改める練習をする。 P一二三「書き下し文のまとめ」を参照し、書き下す。 ❸　白文をノートに写し、返り点と送り仮名を付ける練習をする。 返り点・送り仮名を付ける順序については、特に徹底して指導する。 ❹　置き字の意味や役割、再読文字の返り点・送り仮名の付け方の決まりについて理解する。**知技** この段階では、語句の説明や文法事項・文語文法に深入りせず、訓読を第一の目標とする。 ❺　教材を現代語訳し、それぞれどのような意味を含んでいるのか考える。**思判表** 漢字そのものが持つ意味についてこれまでの言語経験を元に考えるとよい。漢和辞典の引き方・見方については、P一二四「漢和辞典の使い方」を参照する。 ❻　P一二一「学習のポイント」２・３、「言葉と表現」１、P一二三「学習のポイント」１・２を行う。**知技** **【P一二一「学習のポイント」２・３、「言葉と表現」１、P一二三「学習のポイント」１・２】** 格言や成句が現代人の生き方と通じ合う点がないかどうか、問いを発してみる。 ○　テストを実施する。 ○　語句・句形問題を実施する。

指導上の重点目標	
【単元の言語活動１ 熟語の意味「創作」ゲームを行う】 熟語の意味を「創作」して支持数を競い合い、多くの人に支持される「創作」の特徴を見つけ出す。	1

学習活動と指導上の留意点		
導入	展開	まとめと発展
❶	❶ ❷ ❸	❶ ●
ワークシートと振り返りシートを配布する。 活動の目的を説明する。	漢和辞典から熟語を一つ選び、意味を「創作」する。 知技 ①グループを作り、リーダーを決める。 ②リーダーは熟語を選び、そのほかのメンバーがその意味を「創作」する。 ③リーダーは漢和辞典にある「正解」文を書き写す。 リーダーは、「創作」文と「正解」文を読み上げる。 ①「創作」文を回収し、読めない文字がないか目を通す。 ②読み上げる順番を決め、各「創作」文と「正解」文に番号を振る。 ③聞き取りやすいよう、はっきりと読み上げる。 メンバーは「正解」文を予想し、その番号を表明する。リーダーは「正解」文の番号と、それぞれの「創作」文の作成者を発表する。	ゲームを振り返り、支持されやすい文の特徴を話し合う。 思判表 主態 ①リーダーを交代し、全員がリーダーを経験する。 ②選んだ理由を発表し合い、支持されやすい「創作」文の特徴を話し合い、共有する。 **振り返りシートに記入させる。**